

豊田市障がい者 総合支援センター

豊田

活動報告 vol.7

「結」

2019年10月発行

豊田市障がい者総合支援センター

<http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>

社会福祉法人 豊田市福祉事業団

豊田市障がい者総合支援センター「結 活動報告 vol.7」を作成いたしました。

2005年度から、総合支援センターの各施設がその年度に行った取り組みの一つを取り上げ、紹介させていただきました「紀要」を、2012年度版からは手に取っていただきやすい形に一新いたしました。また、豊田市福祉事業団のホームページにも掲載していく予定です。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき

誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない

うれしいことがあったとき

誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない

ひとりではできないことも

誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになればいいなと考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。

私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。

その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

(表紙の題字は、暖 稲垣 恵 さん)

豊田市障がい者 総合支援センター



豊田市障がい者総合支援センターは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活の実現を図るため、豊田市が設置した施設の総称です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」の4施設で構成しています。

豊田市からの出費で設立された豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、国・県及び豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

目次

けやきワークス	1
就労移行の取り組み	
～就職だけをゴールにしない、豊かな生活を目指して～	
暖	3
陶芸サークル	
～利用者の思いを形に～	
第二ひまわり	5
食品科	
～おいしい野菜を地域の方のもとに～	
障がい者就労・生活支援センター	7
グループホーム 喜多ハウスです！	



就労移行の取り組み ～就職だけをゴールにしない、豊かな生活を目指して～

はじめに

けやきワークスは就労移行支援と就労継続支援 B 型の事業を行っている施設です。今回は就労移行支援の取り組みについて紹介します。

就労移行支援とは、一般企業に就職する為に必要な知識・能力を養ったり、訓練を行ったりする事業です。一般企業で働いた経験の無い方から、様々な事情で退職し再就職を目指される方まで、幅広い方々が利用されています。利用期間は2年間です。障がいやその状態像は皆異なりますが、2年の間に多くの経験を積んでいただき、就職するためのあらゆる力のレベルアップを目指しながら、利用者さんの目標や夢、希望が達成できるよう支援をしています。

就労移行支援プログラム

就労移行支援の利用者さんは就労移行支援プログラムに参加しています。プログラムは、毎週火曜日の午前に座学、木曜日の午前に SST（詳細は後述）、火曜日と木曜日の午後にパソコン訓練を行っています。

①座学

座学では、『あいさつ』『敬語』『会社が求める社員像』『お金や時間の使い方』等、社会人として必要なマナーや自立のために必要な知識等を学びます。

この他にも毎月目標を設定しそれを皆の前で発表をしたり、テーマに合わせてスピーチをすることで人前での発言に慣れ、就職活動時（面接や実習）に役立つようにしています。最初は緊張して発言のできなかつた方も、繰り返すうちに人前で発言ができるようになりました。

座学の様子～自己紹介について～



自己紹介のときのポイントは何だと思いますか？

②SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）

SST とは社会技能訓練とも訳されます。人が社会で生きていくうえで必要な技術を習得するための訓練のことです。けやきワークスでは「人づきあいのコツの練習」として、主に社会性を訓練する SST を取り入れています。仕事中や対人関係の中での行動（「謝る」、「お願いをする」、「断る」等）についてテーマを挙げ、皆でより良い行動のやり方を確認し、その場で練習します。仕事中の行動に限らず、「話の輪に入る」「道を尋ねる」等、利用者さんの生活やニーズに合わせたテーマも行っています。

実際に行ってきたところ、けやきにきた当初は話をしても目を合わせられなかった利用者の方が、SST の中で「相手の顔を見る」練習をしたところ、今では目を合わせて話ができるようになりました。また、病院の電話予約の練習を繰り返し行ったことで、ひとりで電話ができるようになった方もいました。

SST ロールプレイの様子～ミスしたときの報告～



見本を実演中

〇〇を間違えてしまいました。すみません。

ステップ（手順）

- ①相手を見る
- ②間違えてしまったことを伝える
「〇〇を間違えてしまいました」
- ③謝る
「すみません」

* SST では上記のような手順に沿って「行動」を練習します

③パソコン訓練

2018 年からパソコン訓練を行うようになりました。タイムカードをパソコン入力で管理する企業がある等、今では様々な機会にパソコンに対する慣れやスキルが求められるようになりました。訓練として定期的にパソコンに触れる機会を設けることで、スキルアップや就職先の選択肢を増やすことができると考えています。

訓練内容は、利用者さんの特性や理解度に合わせて組み立てています。アルファベットやローマ字の確認から行う方もいれば、タイピングソフトを使い素早く正確に打つ練習を行う方もいます。繰り返し訓練を行うことで、ローマ字がわかるようになったり、タイピングができるようになった方もいます。パソコン教室の先生にも月に3回来ていただき、ワードやエクセル等の使い方を教えていただいています。パソコン自体が苦手な方でも「正確に入力する」「ミスがないか確認をする（セルフチェック）」という点を重点として取り組んでもらうことで、その他の作業（部品の組付け、検品等）にもこの訓練内容が活きるようにしています。

パソコン訓練を行う様子



就労移行支援プログラムを行って

2年間の訓練を通して、社会人のマナーや人づきあいのコツを身に付け、就職がゴールではなく、安心して長く働き続けられることを目標にしています。「就労」は生活の一部です。いろんな場面を想定して作業や訓練を行っていますが、実際に働き始めると、さまざまな課題が出てきます。本人の強みが活かせる支援を検討すると共に、企業のニーズの把握も重要であると感じています。そのため、就職後も障がい者就労・生活支援センターと連携しながら、利用者の方の応援を続けています。

陶芸サークル ～利用者の思いを形に～

陶芸は、暖開設当初から楽しんできた活動のひとつです。

『陶芸』というと、ろくろを回し茶碗などをつくるイメージがあると思いますが、暖の陶芸サークルでは、暖の利用者ならではの方法で作品をつくっています。やわらかい粘土が、思い思いの形に変わり、窯から出てくるまでドキドキわくわくする活動です。

作品づくりの工夫



サークルメンバー全員が、それぞれの楽しみ方で作品づくりができるように工夫をしています。例えば「花器をつくる」とテーマを決めたとしても、一人ひとり違った方法で作品をつくっています。



①活動のはじめに

「陶芸が始まる」合図として、まず最初に、やわらかい粘土や泥状の粘土に触れてもらいます。陶芸用の粘土独特のひんやりした質感や、弱い力でも変化する感触に、表情がほころんで陶芸活動をスタートすることができます。

②形をつくる、模様をつける

利用者の得意な動作で、形をつくったり、模様をつけたりできるよう、さまざまな道具を使います。

陶芸用の道具でなくても、アイデア次第で不思議な形を作り出せたり、おもしろい模様になったりします。クッキー型やピザカッター、プリン容器、ラップの芯、おもちゃのタイヤなど、利用者が動かしやすいように工夫をして使います。

もっと斬新な道具を見つけて、作品作りを楽しみたいと思います。



ピザカッター



おもちゃのタイヤ

③色を選ぶ

釉薬（ゆうやく＝陶芸用の絵の具）は、水彩絵の具などとは違い、窯に入れて高温で焼かないと色が出ません。塗るときにはどれも灰色に見えます。どんな色になるかわからないので、色見本でイメージする色を選んでもらいます。



黄瀬戸 マロン 織部 桜花 瑠璃

釉薬のかけ方や、窯に入れて焼くときの条件によって、発色が変わり、窯から出てくるまでドキドキします。それも楽しみの一つです。

一人ひとりの思いを形に

Aさんの場合

粘土をちぎることが得意なAさんは、ちぎった粘土をくっつけて作品をつくります。



コップに布を巻き付けた型に、ちぎった粘土をくっつけていきます。

ちぎった粘土が集まって、とても味わい深い茶香炉ができました。



Bさんの場合

指の感触を楽しみたいBさんは、筆ではなく指を使って絵つけをします。



白化粧土に触った指で、器を握ると、いろいろな形・長さの線が並んだ模様になりました。

Bさんにしか描けない柄の湯飲みセットの完成です。



障がい者作品展

陶芸サークルでは、毎年「豊田市障がい者作品展」に応募しています。

4月にテーマを決め、秋にはメンバー全員が作品を完成させて出品できるよう、計画を立てて作品づくりに入ります。

右の写真は、第21回豊田市障がい者作品展で特選を受賞した作品「茶香炉」です。



陶芸は、利用者の個性が表現できる活動です。好きな感触の素材や道具を使って、一人ひとりがそれぞれの楽しみ方で、作品を生み出すことができます。

自分を表現できて、表現したのを見てもらうことができる陶芸の魅力をも十分に活かして、利用者の方に、陶芸サークルの活動を今後も楽しんでもらいたいと思います。



食品科

～おいしい野菜を地域の方のもとに～

食品科とは、第二ひまわりの利用者が午後に行っている作業活動の1つです。『販売を通して地域の方に季節のおいしい野菜を作っていることを知っていただく』ことを目標に活動を行っています。

また、利用者が作業をしやすいように環境を整えたり、使いやすい道具を作ったりの工夫をしています。今回は、地域の方のもとに届くまでの様子を紹介します。

【食品科特徴】

- ①利用者が作業しやすい道具作りと作業スペースの確保
- ②第二ひまわりと暖の敷地内にある空きスペースを有効活用

「おいしい野菜作りへの道のり」

ステップ① 土作り

～おいしい野菜のために～

おいしい野菜を育てるためには、土作りは重要です。第二ひまわりでは、昨年冬の間に鍬の練習を行い、鍬の持ち方や足の位置、土を耕す経験を中心に行いました。3月には、腐葉土や牛ふん堆肥を畑にまき、鍬で耕し、練習の成果を発揮しました。



ステップ② 種まき

～野菜よ、元気に育て～

種まきは、利用者にとってなかなか難しいステップでした。野菜の種類によっては種が小さく指先でつかみにくく、種の色が土と同色で認識しにくいといった課題がありました。そこで、ペットボトルとペットボトルのキャップ、発泡スチロールを使って種まき用の道具を作りました。キャップに支援員が種を入れておくことで種を掴まずに種を蒔くことができました。また、キャップをペットボトルの容器の中でひっくり返すことで等間隔に種を蒔くことができるようになりました。



ステップ③ 肥料

～たくさん実るかな～

肥料は、近くの牧場に堆肥を買いにでかけています。右手にスコップ、左手に堆肥を持っていざ「畑へ！」野菜の近くに穴を掘り、堆肥を入れるときには「おいしい野菜ができますように」と願いを込めています。



ステップ④ 収穫

～お祭りだ～

いよいよ待ちにまつた収穫です。「やった～～」「おおきい！！」などの声で畑はお祭りさわぎでした。大きいものや小さいもの、いろいろな顔をした野菜との出会い。「でも、それが愛おしい。だって、大切に育てた野菜だもん」と声には出ていませんが、利用者の表情は輝いています。



ステップ⑤ 納品

～おいしい野菜を地域の方のもとに～

収穫後、いよいよ地域の方のもとへお届けします。丹精込めた、おいしい野菜です。どんなお客さんが買ってくれるのか、ワクワクしながら袋詰めを行い、けやきワークスの『ZELKOVA』に納品をさせていただいています。



これからも、おいしい野菜を作り
続けていきたいと思ひます！！

皆さんに愛される野菜が作れるよう
にがんばります！！



こんにちは グループホーム 喜多ハウス です！



喜多ハウスは、豊田市駅からほど近い喜多町にあるグループホームで、知的障がいのある男性7名が暮らしています。

1階に共同リビングとお風呂、2～3階に6畳一間の個室があります。毎日の食事は世話人が作りますが、掃除・洗濯・食器の片づけなどできることは自分です。日中は利用者全員が仕事先に出かけ、帰宅後は世話人や利用者同士でその日の出来事を話し、家庭的な雰囲気の中で過ごしています。

喜多ハウスを語る上で欠かせないのは、なんと言っても個性豊かな利用者さんです。そこで今回は、今世紀初！？のインタビューを通して、喜多ハウスにお住まいの方々をご紹介します。

利用者さんへのインタビュー😊 ～こんな方々が住んでいます～

質問項目 ①趣味・特技 ②仕事内容 ③喜多ハウスの好きなところ
()内はインタビューアーのコメントです。

Aさん



- ①絵を描くこと。猫やヒマワリ、オバケのQ太郎、人や虫の絵も描けるよ。学生の頃は版画や彫刻もやったことがある。
(絵が得意だなんて、初めて知りました！！)
- ②ねぎの皮むき。皮をむくのは好き。
- ③全部！特にごはんがおいしい！

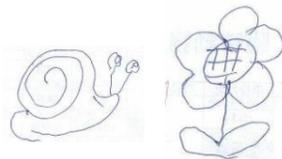


イラスト:Aさん

Bさん



- ①旅行。そば打ち体験が楽しくておすすめ。一人でツアーに参加すると全国各地に友だちができる！
- ②清掃の仕事。怒られることもあるけれど、上司には長年お世話になり感謝している。(義理人情あふれるBさんらしいコメント♡)
- ③みんなでテレビを観る時間。休日みんなそろっての朝食。

Cさん



- ①「西部警察」のDVDコレクション。車の出てくるシーンが特に好き。小学生の時、石原裕次郎がドラマCMをしており、気になって観たことがきっかけ。(西部警察の話になると止まらない～！)
- ②車の部品を扱う作業をチェックする仕事。週1回は清掃作業。
- ③世話人さんがみんな優しい。おいしい料理を作ってくれる。

Dさん



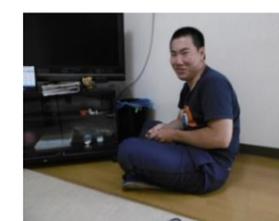
- ①友だちの車に乗せてもらい、日帰り温泉に行くこと。サイクリング。中学から始めた水泳。クロールが得意で500メートル泳げる！
(多趣味なDさんです♪)
- ②駐車場で駐車券を渡す仕事。20年以上続けています。
- ③世話人さんの食事がおいしい！

Eさん



- ①ボウリング。昔会社の仲間と行った時、250点取った!! 幼い頃お父さんがよく連れて行ってくれました。
2つ目はカラオケ。必ず歌う曲は光GENJIの「ガラスの十代」♪
- ②こども園で花の水やりや掃除、草取り、畑仕事、行事の手伝い等。
- ③世話人さんが作ってくれるごはんがおいしいです！

Fさん



- ①カレーヌードル、チーズケーキにはまっている。ウルトラマンを観たり、工作をすること。
(Fさんは、絵を描くのもお上手です。)
- ②畑で土を掘ってビニール袋に入れたり苗を植え替えたりしている。
- ③みんなと一緒になどころ。

Gさん



- ①サイクリング。折り畳み自転車と電動自転車2台持っている。電化製品を見たり、調べること。好きなメーカーはSONY。
- ②大量の軍手干しと、清掃をしている。
- ③部屋からの眺めがいい！おいでん祭りのアナウンスも、生の声とラジオ・ラビートからの音声を同時に楽しめる。

喜多ハウスインタビュー、いかがでしたか？
このように、素敵な利用者さんの集うグループホームです。
「喜多ハウスについてもっと知りたい！」と思ったそのあなた！ぜひ喜多ハウスに遊びに来てください。利用者さん、世話人、支援員一同心よりお待ちしております！
(パンフレットもあります！！)

